

学校も街も
魅力がいっぱい

特集

実践的な人材育成と 真の教育のために

国立大学法人 弘前大学 学長 佐藤 敬

未知の可能性を秘めた 「弘前大学白神酵母」で ブランド商品開発を

弘前大学農学生命科学部 分子生命科学科 教授 殿内 晓夫

サークル紹介/開かれた地域の足へ 公共交通活性化を目指す学生団体

H·O·T Managers

特設サイト展開中!

WHY? HIRODAI BECAUSE HIRODAI

卒業生紹介

デザイン工房エスパス 代表 木村 正幸

HIRODAI TOPICS

ひろだいトピックス

Contents

COVER/クローズアップ 表紙の顔

P1. 山本 愛奈さん/ 久保 達矢さん

農学生命科学部園芸農学科

理工学部物理科学科

P2. 特集1 実践的な人材育成と真の教育のために

国立大学法人弘前大学 学長 佐藤 敬

P5. 役員紹介

未知の可能性を秘めた

P7. 特集2 「弘前大学白神酵母」でブランド商品開発を

弘前大学農学生命科学部 分子生命科学科 教授 殿内 晓夫

サークル紹介/開かれた地域の足へ 公共交通活性化を目指す学生団体

P9. H·O·T Managers

広報PR/特設サイト展開中!

P10. WHY? HIRODAI BECAUSE HIRODAI

卒業生紹介

P11. デザイン工房エスパス 代表 木村 正幸さん

P13. HIRODAI TOPICS ひろだいトピックス

- 1. 「弘前大学グリーンカレッジ」開校
- 2. 第15回 弘前大学総合文化祭 開催
- 3. 理学部・理工学部創設50周年記念式典
- 4. 在札幌米国領事 弘前大学を訪問
- 5. 「第11回 日銀グランプリ」で最優秀賞
- 6. 弘前大学起業家塾(第6回)を開催

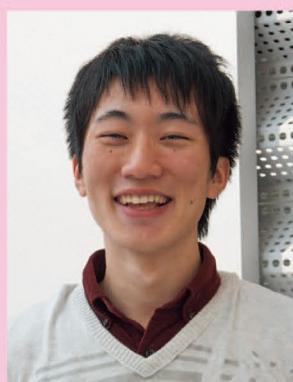


クローズアップ/ 表紙の顔

弘前大学キャンパスツアーガイド
として活躍してくれたお2人です

Q1 弘前大学を 選んだ理由は?

理工学部物理科学科を選んだのは、高校時代から物理が好きで、大学でより深く物理を学び専門性を高め、卒業後には高校物理の教師として働きたいという夢があったためです。



Q1 弘前大学を 選んだ理由は?

弘前大学を選んだのは、弘前大学の学園祭に行った時に、みんな活き活きしている印象をもち、この大学で学びたいなと思ったからです。また、4つの学部が1つのキャンパスにあるため、交流の輪が広がるのではないかと思いました。学部を選んだ理由は、もともと花が好きだったので、花に関する学びをしたいと思い、この学部、学科を受験しました。

Q2 弘前のよいところを 教えてください

大学があるせいか、町全体の年齢層が若い気がします。大学周辺は若者の活気にあふれています。一方で市街地から少し足を伸ばせば岩木山や十和田湖、白神山地といった自然が豊かにあります。そしてなんといっても、弘前公園の桜が素晴らしい。春には弘前城周辺だけでなく、弘前市全体が桜で桃色に彩られます。まさにわたくち自然を守ろうとする、弘前市民のあたたかさを感じられます。

Q3 卒業後の目標を 教えてください

成長し続けること。社会人として、教師としての学びはもちろんですが、一個人として興味があることにも妥協せず、人としての厚みを増していくことを思っています。

千葉県立京葉高等学校出身
農学生命科学部園芸農学科 4年
山本 愛奈さん

Q3 卒業後の目標を 教えてください

卒業後の目標は、何事にも挑戦することです。春から社会人になりますが、失敗を恐れず、色々なことに興味を持ち、挑戦していきたいと思います。また、仕事の合間を見つけて、大学の仲間と会ったり、弘前を訪れることが出来ればいいなと思っています。

Q2 弘前のよいところを 教えてください

弘前の良いところは、温かい雰囲気が感じられるところです。カフェや料理屋さんでは、お店の人気が気さくに話しかけて下さったり、誰かが困っていたら助け合う姿がよく見られます。このように、見知らぬ人とでも会話を楽しむことができ、助け合うことのできる弘前の温かい雰囲気はとても好きです。

特集1

実践的な人材育成と 真の教育のために

国立大学法人弘前大学 学長 佐藤 敬

弘前大学は、青森師範学校や官立弘前高等学校、弘前医科大学などを母体に、昭和24年に文理学部、教育学部、医学部からなる大学として発足しました。その後、国内の国立大学を世界最高水準に育成するため、また、「知の創造と継承」を担つてもらうという文部科学省の政策によって国立大学は法人化され、平成16年に国立大学法人弘前大学を設立。現在は人文学部(平成28年4月より人文社会科学部)、教育学部、理工学部、農学生命科学部、医学部の5つの学部、さらには7つの大学院研究科などで運営されています。地方創生が言われ、人材育成や地域貢献などが大学に求められてきているなか、弘前大学はどのような方向へ進もうとしているのか、佐藤敬学長にその将来構想をお伺いしました。

地域と共に創造する大学

ひと昔前まで、大学は好きな勉強を一生懸命し基本的な素養を身に付けるだけでいいという時代でした。しかし、社会

に具体的に役立つような、実践的な教育を実施すべきといった社会の要請が徐々に高まり、大学のあり方が変わってきたのです。

そこで本学では「世界に発信し、地域と共に創生する」をスローガンに、世界的なレベルの研究やグローバルな視点で活躍する人材育成と、地域活性化の中核的拠点の役割を担うことを目指しています。それも地域と共に創造していく、自然な流れでそうなっていけたら一番良

いと考えています。

地域と共にとは言っていますが、この地域とは青森に残つて活躍するというのではなく、全国どこにいてもその地域に役に立つような人材になれるよう学んで欲しいということです。実際、卒業生のなかでも、全国で活躍している人はたくさんおりますし、グローバルな視点にしても、例えばリンク産業において、より良い品種の開発に貢献し世界へ目を向け海外展開することだってできる。

こうしたことを基本に、第三期中期目標・中期計画では「再生エネルギー」、「環境」、「被ばく医療」、「食」の4つの

弘前大学長

佐藤 敬

さとう けい



まりエネルギーが大きくないため、嶽温泉街で消費するのと融雪に利用する、いわゆるエネルギーの地産地消です。もうひとつは八甲田と下北ですね。ここにはかなりの熱エネルギーがありますから可能性は高いと思います。

発電所を作るとなると、大きな資本が必要となりますので国や大企業の参画が必要で、本学ではそのための調査という役割になります。そういうポテンシャルはあるのです。

もうひとつ取り組みとしては海洋エネルギーがあります。日本海側からの海流が津軽海峡に流れてくると、狭い海峡のため流れが早くなります。その海流のエネルギーを利用して発電しようといふパイロットスタディー（予備試験）を進めているところで、これができれば無限の大エネルギーになります。社会実装とすればこの2つがあります。

テーマを本学の重点分野に置き、さまざまな成果の社会還元としてのイノベーション創出と人材育成を通して、地域貢献のさらなる推進を目指しています。

地域貢献を推進する 4つのテーマ

「再生エネルギー」について

岩手県や秋田県には地熱発電所はありません。それけれど、青森県にはありません。それで具体的な取り組みとしては嶽温泉の地熱発電を進めています。これはあ



にレーダーを設置し、気象データの記録もしています。

「被ばく医療」について

実はもう何十年前から弘前大学医学部の附属病院は、県の指定する被ばく医療施設でした。しかし、そうしたことは起こらないだろうとあまり整備を進めてなかつたようです。それで平成22年に「被ばく医療総合研究所」を立ち上げたところ、翌年に東日本大震災が起こりました。

そこで同総合研究所では、福島県の浪江町を中心に活動を始め、「一般の人の不安を解消するにはどうしたらいいか」というリスクコミュニケーションといった実践活動を続けています。これは行政や地域の人たちに対して、正確な情報や知識などを持つてもらうための活動です。

この震災をきっかけに、国でも被ばく医療体制を整備しなければならないとなり、全国に4カ所のナショナルセンターを作り、北日本では本学が昨年の9月に指定されました。青森県には原子力発電所や核燃料の再処理工場がありましたが、万が一のことを考え、これまで以上に充実した体制を構築して行く必要があります。

「環境」について

世界遺産である白神山地をフィールドに、地球が温暖化になっていくと、白神の自然がどのようになっていくかの研究を「白神自然環境研究所」が中心となつて取り組んでいます。動植物の標本をしつかり保存していくこと、何十万点もの標本にもなっていますし、そのなかで新品種も発見されたりもしています。

また、これまで白神地域の気象が分かっていなかつたため、理工学部の屋上

うと240%になる。ナガイモやゴボウ、ニンニクなど単価の高い作物を作っているのです。こうした生産物は、これまでローマテリアルで、いわゆる生のまま出荷してきているわけですが、これに付加価値を付けて製品化すると、さらに大きな産業となる可能性があるのです。そういうポテンシャルを私たちは持っています。付加価値をつけることが本学の役割のひとつになっています。

例えば、これまでナマコは一千万円程度の産業でした。それが乾燥ナマコを中国へ輸出するようになって、25億円の産

「食」について

青森県の食料自給率は約120%といわれております。これを価格ベースでい



業まで成長してきています。本学にはナマコ研究センターがあり、その教員が中国のマーケティングの調査をし、附加值を付けて方向性を切り開いていくことに貢献しているのです。

また、私たちが食べている生食用のサーモンですが、そのほとんどは外国からの輸入に頼っています。そこで今サーモンの養殖研究を地元企業と一緒に深浦町で取り組み出しており、雇用も少しですが生まれています。さらに、モズクの場合にしても沖縄県産がほとんどを占め、全国市場は16億円と言われております。これを1割でも青森県産でシェアを取れば1億6千万円になる。青森県にはこうした可能性を秘めた資源は、まだまだたくさんあるのです。

さらなる 人材育成のための改変

人材育成、地域貢献と言いましても、本学全てがその方向へ向いているというのではありません。大学として機能を強化していくことです。

これまでのことを踏まえ、第三期中期目標・中期計画で大学の運営強化を

していきためには3つの柱があります。ひとつは理工系・農学系の人材育成強化、教員養成の質的充実、それと教育研究のグローバル化です。新年度からこの3つを目標に学科を再編しました。

新しい学科では、理工学部に「自然エネルギー学科」と「機械科学科」を、農学生命科学部に「国際園芸学科」を設けました。自然エネルギー学科は再生可能エネルギーに関係する人材育成のため、機械科学科は医療産業の学部を強化するためという、理工系に関しては、この2つを主眼に置いています。国際園芸学科はその名前の通り、農産物の世界的な展開と、国際的な教育を強化するのが目的です。

また、教育学部は基本的に教員養成のための学部だということを明確にしました。これは弘前大学だけではなく、日本全国の国立大学で教員免許を取りなくても良いコースは廃止になり

ました。なかでも特に小学校教員を「専門力」と「実践力」を持つようしっかり養成する。さらには今県内の本学卒業生の占める教員の割合は約35%と低く、この数字を増やしていく必要があります。

大学院についてですが、学問がどんどん発展すると、大学4年の学部教育だけでは終わりません。高等教育の真

の教育の場というのは、少なくとも一部は大学院へシフトしていくようになつていくべきだと考えます。

これからの方針としては、理工系と農学系の人材育成強化をしていくこと。文系といわれた学問が、文理融合の形で理系にも取り込んでいくという改変を行なつていきます。社会へ出て

実践的な人材として活躍していくために、理系も経済学や経営学、マーケティングなどといった勉強も必要になつているのです。そういう幅広く多様性を持ったことを身につけた学生を育成していくことも本学の大きな役割だと思っています。



弘前大学長
佐藤 敬(さとう けい)

1950年6月、北海道深川市生まれ。
弘前大学大学院医学研究科修了後、同医学部附属脳神経疾患研究施設の教授や施設長を経て、弘前大学医学部長に就任。その後、弘前大学の医学研究科長、被ばく医療総合研究所所長などを務め、2012年2月に国立大学法人弘前大学長に就任する。

専門・研究テーマは脳血管障害。弘前大学の学生時代には医学部ラグビー部に所属するスポーツマン。

役員紹介 (平成28年2月1日現在)



理事(総務担当)・副学長・事務局長

加藤 健(かとう けん)

略歴

平成18年4月 文部科学省高等教育局大学振興課課長補佐
平成20年4月 東京医科歯科大学医学部事務部長
平成23年4月 京都大学医学部附属病院事務部長
平成26年4月 弘前大学理事
(命:副学長、事務局長)
平成28年2月 弘前大学理事
(命:副学長、事務局長)



理事(企画担当)・副学長

吉澤 篤(よしざわ あつし)

略歴

平成12年4月 弘前大学教授採用
平成22年5月 弘前大学機器分析センター長
平成24年4月 弘前大学大学院理工学研究科長・理学部長
平成26年2月 弘前大学理事(命:副学長)
平成28年2月 弘前大学理事(命:副学長)

「世のうつつ きびしけれども 若人の望
みは高し ともにうたわん 弘大の意氣」。こ
れは言わずと知れた、本学の「学生歌」の一節
です。昭和35年に作詞されたものですが、どの
時代や世代にも共鳴する素晴らしい詩だなあ
と、歌うたびに深く感心します。特に「若人」の
部分を「弘大」と置き換えてみると、まさに本
学を取り巻く環境は厳しいけれども、逆境を
バネにして前進していくこう!と激励されてい
る気がします。

「学問の府」とされてきた「大学」もものはや完
全に競争的環境に置かれ、自然淘汰にいかに
抗うかで疲弊している状況ではありますが、
総務担当理事として常にこの歌の精神を忘れ
ず、顔を上げ、前を向き、役目を果たしていき
たいと思います。

監事

北川 順一(きたがわ じゅんいち)

略歴

平成13年6月 青森銀行取締役
平成16年6月 青森銀行常勤監査役
平成20年6月 あおぎんディーシーカード(株)代表取締役社長
平成22年4月 弘前大学監事
平成24年4月 弘前大学監事
平成26年4月 弘前大学監事

監事(非常勤)

小田切 達(おだぎり さとる)

略歴

平成元年4月 最高裁判所 司法修習生
平成3年4月 あすなろ法律事務所(元二葉法律事務所) 弁護士
平成12年8月 小田切さとる法律事務所 弁護士
平成24年4月 弘前大学監事(非常勤)
平成26年4月 弘前大学監事(非常勤)

平成28年度から始まる向こう6年間の第3期に向けた教育研究組織および教員組織が改組され、中期目標中期計画の中で弘前大学の進むべき方向が明らかになりました。言わば戦略が出来た段階で、これからは戦術を編み出して計画を遂行し目標を実現していかねばなりません。

期中の4年後には他に類を見ない特色を持つた総合大学として存在感を示していくことを確信しています。

そして学生の皆さんのが大学を卒業後10年経ち社会の中核として活躍する頃に、「弘前大学に学んで良かった」と言つてもらえるような大学でありたいと願っています。



理事(社会連携担当)・副学長

大河原 隆(おおかわら たかし)

略歴

平成17年12月 青森県企画政策部新幹線効果活用企画監
平成18年5月 青森県中小企業団体中央会
副会長兼事務理事
平成22年2月 弘前大学理事(併:副学長)
平成24年2月 弘前大学理事(命:副学長)
平成26年2月 弘前大学理事(命:副学長)
平成28年2月 弘前大学理事(命:副学長)

研究や教育に加えその力を生かし地域貢献をすることが社会連携の仕事です。
ご承知のとおり、国・県をはじめ県内市町村は人口減少問題解決のために産業振興や若者定着施策に積極的に取り組んでいます。本学も青森県唯一の国立大学として、地元志向を鮮明にし、地元の自治体や時には経済界やNPO等とも連携して地域活性化のために働くことが大きな使命とされています。社会連携は、そのためには様々な地域からの要請に迅速に対応することにしております。

また、学内の国際化とともに青森県産品の海外輸出等地域経済のグローバル化への対応もすすめなければならぬと考えています。様々な領域で教員や学生の皆さんの助けを借り、その活動を助けるために関係職員とともに頑張りたいと考えています。



理事(研究担当)・副学長
郡 千寿子(こおり ちずこ)

略歴

平成11年4月 弘前大学助教授採用
平成22年4月 弘前大学教授
平成24年2月 弘前大学出版会編集長
平成26年4月 弘前大学附属図書館長
平成28年2月 弘前大学理事(命:副学長)



理事(教育担当)・副学長
伊藤 成治(いとう しげはる)

略歴

平成12年4月 弘前大学教授
平成18年4月 弘前大学教育学部附属教育実践総合センター長
平成24年4月 弘前大学教育学部長・大学院教育学研究科長
平成26年2月 弘前大学理事(命:副学長)
平成28年2月 弘前大学理事(命:副学長)

本学が、学生たちの積極性や知的好奇心を刺激し、その成長を促す「場」となっているか、そうなるためにはどうあればよいかを考え、それらを一つずつ実現していくことが責任をもつて果たさなければならない私の任務であると心得ています。

また、本学ホームページの「弘前大学教育情報」に書いたメッセージは、私の学生への期待となっていますが、その期待がかなえられる大学であり続けられるよう、理事であるとともに一人の教育者として取り組んでいきたいと思っています。

※「弘前大学教育情報ホームページ」
<http://www.hirosaki-u.ac.jp/policy/>

歴代理事や教職員の方々が、今まで築いてこられたご功績に敬意を表しつつ、その職務を引き継ぐことに重責を感じています。产学官連携や知的資産には関わりの薄い日本語学研究者ですが、大学における研究基盤の重要性や研究への熱意は共有できると思いま

す。

研究領域に関わらず、すべての先生方が気持ちよく意欲的に研究に取り組める環境を提供できるよう、ご支援ができるよう、皆様と一緒に考え、一緒にはたらきかけて参ります。

誠心誠意、与えられた使命を果たせるよう努力を続けますので、どうかお力添えいただけますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



弘前大学農学生命科学部
分子生命科学科 教授

殿内 暁夫

とのうち あきお



未知の可能性を秘めた

「弘前大学白神酵母」で ブランド商品開発を

ひょっとしたらこれから先、日本酒の味がもっと楽しくなるかも知れない。そんな期待を抱かせているのが、微生物生態学を教えている農学生命科学部の殿内暁夫教授の研究チームです。青森県は一次生産物において全国有数の農業県であり、そのため県では「食を活用した食産業の充実化」を掲げ食品加工分野の強化に取り組んでいます。弘前大学でも地域の食産業の発展のため積極的に貢献していくとしています。その中で昨年に商標登録された「弘前大学白神酵母（略称：弘大白神酵母）」もそのひとつ。それにはどんなものなのでしょうか。

酵母とはどういうものか

地球上にはありとあらゆるところに微生物が棲んでいます。その微生物が土壤中の生育環境の中で、どのような機能や役割を持ついるのかなどを研究するのが殿内教授の教える微生物生態学です。

それまで主に水田をフィールドとして研究してきましたが、2011年から白神山地にも研究を広げるようになります。というのは、まだ知られていない微生物がかなりたくさん棲んでいることが分かつてきたからです。

殿内教授は白神山地で採取した試料から酵母を分離して育種する作業を約4年間にわたって続けています。人間にとつて役に立つ酵母が潜んでいる可能性が大きいからなのです。

では、酵母とは一体どういうもののな
でしようか。

生物には5界説というのがあり、人間は動物界、植物は植物界、アメーバは原生生物界、バクテリアなどはモネラ界、そして菌界の5つ。そのなかの菌界は接合菌、担子菌、子囊菌などに分れます。さらに子囊菌と担子菌のなかで単細胞形態で増殖するものを酵母といいます。一般によく知られているのは、お酒やワイン、パンなどは酵母の働きで作られることです。それらは実用酵母といつて酒酵母、ワイン酵母、パン酵母と呼ばれ、自然界にある酵母とは異なるのです。

900サンプルのなかから 生まれた「弘大白神酵母」

「白神山地にはここだけにしかない酵母があることが分かつてきましたところです」と殿内教授は言います。

分析解析途中ですが、白神山地の酵母の遺伝子を調べて家系図のようなものを作っていくと、大きく分けて2つから3つのグループに分けることができます。ひとつは酒酵母に近いもの、他はそれとは全く離れているものです。「それらグループは、人間でいえば民族の違うのようなもので、さらに酵母にはそれぞれ人間と同じように個性があるのです。」

ブナやミズナラなどの広葉樹の樹皮やリターから900にも及ぶサンプルを採取し、分離・培養していく作業。そこでアルコール発酵をする酵母とそうでない酵母を分けます。分離された個々の酵母はそれぞれ株といいますが、現在研究対象になるのは100株ほど。殿内教授によれば、10%の確率で酵母を採取できることは、かなり高い数値なのです。

サンプルには採取順に番号が付けられ、なかなか企業が利用できる酵母5株を公開。それを

「弘前大学白神酵母」と名付け、平成27年に商標登録をしブランドマークも制定しました。また、同年には日本酒の試験製造免許も取得。これは県内の大学では初めてのことなのです。しかし、年間50ℓしか造ることができず、しかも販売することもできないというものです。

協会酵母に負けない 育種開発を

日本酒は協会酵母で造られるますが、これはいわば飼い慣らされた非常に優秀な「家畜」のようなものです。酵母には糖を発酵させる力があります。協会酵母は安定的にアルコール発酵させ続け、最終的に20%以上になるといいます。

一方、白神山地を含めた自然界の酵母は、そこまでの力はありません。殿内教授の研究チームでは、今それに近い独特な味や香りを出す酵母の選抜・育種を進めているのです。

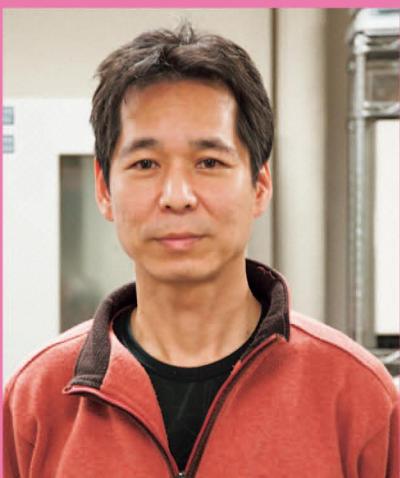
「目指しているのは、協会酵母にはない白神酵母独自の様々なタイプのお酒ができる酵母の育種開発です。藏元さん

に安心して使ってもらうためには、まだまだ克服しなければならない課題があるのです」と殿内教授は話します。

例えば弘大白神酵母No.9では香りもあって酸味と甘みのバランスが良く、女性好みのお酒はできるが、日本酒として

は物足りなさがあるといった課題があります。

酵母には素材が持っている個性を引き出し、ものを作る働きがあります。未知の可能性が秘められているのです。研究チームでは今、地元企業と共同で商品開発を進めています。近い将来、地域の食産業の強化に貢献するため、世界遺産白神山地の酵母から「弘大白神酵母」ブランドとして様々な商品が生まれているかも知れません。



弘前大学農学生命科学部
分子生命科学科 教授
殿内 晓夫(とのうち あきお)

1990年 九州大学農学部卒業
1995年 九州大学大学院農学研究科修了
1996年 工業技術院・生命工学工業技術研究所
COE特別研究員
1998年 弘前大学農学生命科学部助手
2004年 弘前大学農学生命科学部助教授
2016年 弘前大学農学生命科学部教授

■大学院生の森山 裕理子さん

白神山地で空気中の雑菌が入らないようサンプルを採取し、それから酵母を分離して培養、育種という気の遠くなるような作業をしています。小さな規模でお酒造りもしているのですが、この環境で酵母がどのような生育をしているのか見たり、育種改良したりするのは楽しいですね。



大学院生の森山 裕理子さん



H.O.T Managers

開かれた地域の足へ公共交通活性化を目指す学生団体

青森県弘前市は「学都」と呼ばれる街で、弘前大学以外にも複数の大学が立地しています。県外から弘前にやってくる大学生も多く、弘前大学では在学者の約6割が県外出身者です。弘前市も他の地方都市と同様、自家用車に過度に依存した車社会で、地元の人であれば1家に1台ではなく1人1台が当たり前。

加えて、電車やバスなどの公共交通についても、路線や時刻、運賃に関する情報が十分に提供されているとは言えず、県外から訪れた学生にとっては非常に使いづらい状態です。また、学生達も免許は持っていても、車を持っている学生は少ないと現状です。

この現状を踏まえ、札幌市から弘前大学に入学した大野悠貴さんは、「もし、電車やバスなどの公共交通が今よりも使えるようになれば、行動範囲が広がり、地域の良さや魅力もたくさん知ることができ、私たちの学生生活がより豊かになるのではないか?」と考え、2010年に学生サークルとして立ち上げたのが「H.O.T Managers」です。

主な活動としては、電車やバスに関する基本的な情報と目的地としての地域のお店や見どころの情報を合わせた情報誌の発行、電車やバスに親しみを持つもらうためのイベントの主催、小学校や保育園・幼稚園などに出向いて子どもたちにバスの乗り方を教える乗り方教室の実施などです。



子供達へのバスの乗り方教室

代表の大野さんは、「これまで様々な活動を行ってきましたが、活動を通して、地域のことをより深く知れただけでなく、学生でも地域を変えることができるのだと思いました。イベント等を通して交通事業者や行政の人たちの意識に変化を感じましたし、情報誌の取材等を通して地元のお店の方たちが公共交通というものを意識するようになりました。最近では、地元の町内会の方たちと一緒に情報誌づくりのための地域調査を実施するなど、地域の方たちと協力・連携することで、活動の幅がより広がっていると思います。単に電車やバスなどの公共交通のためだけではなく、地域の人や暮らしにも目を向けることが大事だと感じています。」と語ります。



情報誌「ほっと」沿線地域の情報やお店の情報も掲載して公共交通を利用するキッカケづくりに

2014年には日本モビリティ・マネジメント会議においてJ-COMMプロジェクト賞を受賞しました。今後も、地域とのかかわりを大事にしながら、学生生活がより楽しく豊かになるよう、公共交通と

いうアプローチから活動をつづけていきます。

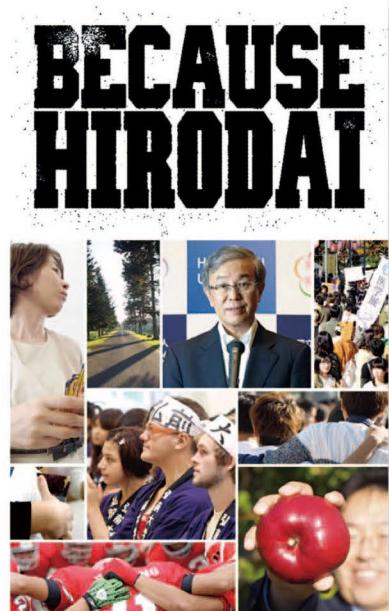
彼らのこれまでの活動に対しても、2014年には日本モビリティ・マネジメント会議においてJ-COMMプロジェクト賞を受賞しました。今後も、地域とのかかわりを大事にしながら、学生生活がより楽しく豊かになるよう、公共交通と

く、地域の人や暮らしにも目を向けることが大事だと感じています。」と語ります。



特設サイト展開中

弘前大学では、ショートムービーを中心とした
特設サイトを開設しました。



WHY? HIRODAI

大学つて何ができるの?
何をしているの?

一般的に、大学に対して高校生や地域
の人が共通して持つのは、「何をしている
のかよくわからない」ということ。

この疑問解決の入口となるのがこのサ
イトです。現在、弘前大学で活躍中の教
員、学生、留学生が登場し、弘前大学への
熱い思いを語ってくれます。

国立大学法人弘前大学は、新たな経済
社会を展望した大胆な発想の転換の下、
学問、専門分野の進展やイノベーション創
出に最大限貢献する地域活性化の中核
拠点を目指していくもあす。

WHY? HIRODAI BECAUSE HIRODAI

なぜ弘前大学を選んだのか?
なぜ弘前大学を選ぶべきなのか?
だから弘大を選ぶべき!
だから弘大に注目すべき!

学生、研究者、OB・OG達は、なぜ弘
前大学を選択したのか、弘前大学を選び
何が得られたのか。「楽しい」「面白い」だ
けではなく、弘前大学の今と未来、弘前
大学のアイデンティティ、そして進むべき
方向性を動画でご紹介します！

学長も登場!
今すぐWEBへ
←これまでのテーマはこちる。



<http://www.hirosaki-u.ac.jp/whyhiro dai/>

- ①「ゲームで読み解く津軽の社会」
人文学部准教授 日比野 愛子
- ②「日本文化を愛するアメフト野郎」
留学生 Lodlow Dillon
- ③「視線の先に「世界」を 学長の思い」
弘前大学長 佐藤 敬
- ④「SHOUT」
- ⑤「世界に通用するつんぐを送り出した」
農学生命科学部助教 松本 和浩
- ⑥「雨の中の囁き」
教育学部3年 小野 幸大
- ⑦「9000kmを超えて」
懐石料亭仲睦 Carin Lafitte
- ⑧「理系女子の素顔」
理工学部 4年 秋山 彩華
- ⑨「短命県返上ぐの本気」
医学研究科 教授 中路 重之
- ⑩「ダイジョブス」

作業部屋にこもり、作品制作に明け暮れた
学生時代

学生時代は、毎日教育学部棟の作業部屋にこもり、毎晩夜通し作品制作に没頭していました。當時はみな、作業着として白衣を着ていたんですが、汚れていれば汚れているほど箔があるよう見えていたので、美術専攻の学生は皆、インクで汚れた白衣をずっと着ていました。作業部屋にはたくさんの機材があったので、仲間と一緒に好きな作品制作を好きなだけやっていました。息詰まった時でも、もがいて苦しんで描いているうちに何かが見えてくる、そう思いました。よく徹夜で作業していました。描いて



事務所にて、校正作業を行う木村代表

いるときは「自分って天才?」と思つて無我夢中で描いているのですが、次の日になつてみると、「こんな落書きを描いていたのか…」と思う、そんな日の繰り返しでした。先生には「夜は寝て、作業は日中にやれ」と怒られましたね(笑)。

卒業、就職、そして独立

卒業後は研究室に残り、村上先生のお手伝いをしていました。その中でポスター・デザインの仕事があり、印刷業に興味をもつたことがきっかけで、弘前市内の印刷会社に就職しました。

印刷会社に就職したものの入社してからは営業を担当していました。それほど大きくない会社だったため、営業担当でしたが、工場に行って印刷の現場を見て技術的なことを学んだり、自分でラフ画を作成して印刷担当とお客様とのつなぎ役をしていました。そうしているうちに、受注から納品まで一貫して手がけられれば、お客様のニーズにもっと応えられるのではないかと考えるようになりました。独立しました。

人との出会いを大切に!

今の時代で学生生活を過ごすことができるのが本当に羨ましいです。私が学生の頃は、学生が社会と関わる機会はほとんどない環境でした。しかし、今は弘前市も弘前大学も地元企業なども、様々な団体がいろいろなコミュニケーションを取り合い、人と人との繋がりができやすい環境です。あれをやつ



デザイン工房エスパス 代表
木村 正幸さん (きむら まさゆき)

弘前大学教育学部美術科卒。
1962年青森県黒石市生まれ。弘前南高校を卒業後、1980年弘前大学教育学部中学校教員養成課程美術専攻入学。1985年9月に卒業し、翌年3月まで聽講生として研究室に残り、村上善男元弘前大学教授・名譽教授の作品制作の補助等をする。その後、自分のデザインしたものが、印刷物となり完成していく過程をみて、制作することへ興味がわき、弘前市内の印刷会社に入社。4年半後、現在の「デザイン工房エスパス」を設立し、独立。その他、NPO法人「横町十文字まちそだて会」副理事長、日本グラフィックデザイナー協会JAGDA青森地区代表幹事も務める。

ておけば就職に有利とか、これをやつても意味がないとか、そんな打算的な考えをしないで、こんなに社会に出て行きやすい環境があるんだから、何事にも積極的に参加してほしいですね。もしかしたら、その出会いの中に、今後の人生を変えるほどの出会いがあるかもしれませんですから。いろいろなコムニティに参加して、意識的にいろんな人と接点をもつようになると、それが人生の宝に、宝にならなくても肥やしになる、そう思つて行動するように私は心がけています。

地元を盛り上げたい! その思いで:

地元を盛り上げようと、現在は商店街や行政、地域の方々と連携をとりながら、まち歩きツアー・店舗改装デザイン・食のプロ

今後も、いいデザインを追い求め、地元を盛り上げていきたいと思っています。

モーションなど、地域に眠っている宝物を活かした黒石らしいまちづくりを目的として、NPO法人「横町十文字まちそだて会」の一員としても活動しています。学生さんとも一緒に活動する機会がありますが、こういった活動に参加する学生さんには地元愛を感じます。もちろん、県内出身者以外の学生さんもいますが、積極的に社会と関わりを持とうとする姿勢は素晴らしいと思います。デザインの良さは、デザイナーがそのデザインの対象といかに関わっているかが大きく影響すると思っています。自分と地域・社会との関わり方を見直してみると、もっと素敵な人になれるかもしれませんね。

木村さんが手がけた弘前大学のイメージポスター。

「弘前市」は城下町の落ち着いた町並みやコンパクトな街の規模から暮らしやすさに定評があり、観光においては桜やねぶた祭りなど全国的に知名度があるため、「弘前で暮らし、学ぶ」ことにステータスを感じられるものとしました。

学ぶ街は、暮らす街でもある。

弘前は、懐の深い街だと思います。
例えば和と洋、そして伝統とモダン、
対照的な価値観が、気持ちよく同居しているんです。
そこに進取の気風を感じながら、
私はのびのびと大学生活を送っています。

国立大学法人
弘前大学

社会科学部／教育学部／医学部医学科／医学部保健学科／理工学部／農学生命科学部

「APAアワード2016」で弘前大学ポスターが『入選』!

「第44回公益財団法人日本広告写真家協会公募展(APAアワード2016)」の広告作品部門において、弘前大学のイメージポスターが「入選」しました。

この公募展は、2014年1月1日から2015年8月31までに新聞、雑誌、ポスター、カレンダー、パンフレット、DM、CDジャケットなど実際に制作発表された印刷物を対象としており、多数の応募作品の中から、実際に世の中に流通した広告を「心を動かす作品」という観点で審査されたものです。

弘前大学のポスターを含む受賞作品は、『年鑑日本の広告写真2016(公益財団法人日本広告写真家協会監修)』(玄光社刊)に掲載されました。





弘前大学グリーンカレッジは、地域の方々の「学び直し」のニーズにこたえるため正規学生の開講科目の一部を開放し、学生との共学や、サークル活動、大学行事への参加により学生と一緒にキャンパスライフを経験していただくものです。平成27年9月25日（金）、附属図書館グループーナングルームにおいて、「弘前大学グリーンカレッジ第一期生入校式」を挙行しました。入校生は、30代～70代までの幅広い年齢層で、地域で活動するシニアや女性、会社員、マスコミ関係など様々な方が、弘前市を中心に関東県内各地から集まりました。なかには親子で弘前大学に在学することになった方もいます。

入校式では、入校生21名に対して、学長から入校許可が宣言された後、弘前大学への入校を歓迎するとともに、本学の学生や教職員と一緒に教育や学生活動に積極的な参画を期する旨の告辞がありました。続いて、入校生代表から、グリーンカレッジの心得を守り、専門的な学修と自由闊達な学生生活を送ることが宣誓され、入校式は、厳かな中にも和やかな雰囲気のうちに終了しました。入校式終了後に入校生ガイドダンスが行われ、関係する教職員より授業の受け方やキャンパス内での注意事項、施設利用等のカレッジ生活全般にわたり説明があり、入校生からは授業前の準備やキャンパス内での態度などについて熱心な質問が相次ぎ、来るグリーンカレッジ生活に期待を寄せていました。

弘前大学グリーンカレッジは、地域の方々の「学び直し」のニーズにこたえるため正規学生の開講科目の一部を開放し、学生との共学や、サークル活動、大学行事への参加により学生と一緒にキャンパスライフを経験していただくものです。平成27年9月25日（金）、附属図書館グループーナングルームにおいて、「弘前大学グリーンカレッジ第一期生入校式」を挙行しました。入校生は、30代～70代までの幅広い年齢層で、地域で活動するシニアや女性、会社員、マスコミ関係など様々な方が、弘前市を中心に関東県内各地から集まりました。なかには親子で弘前大学に在学することになった方もいます。

今年のテーマは「SHOUT」。サークルやゼミによる模擬店、各学部の研究成果の展示、ステージ発表など、多彩な催しが行われました。学生や地元住民など、多くの来場者が訪れ、弘大生が勉学や課外活動を活発に展示している姿をお見せすることができました。

期間中は天候にも恵まれ、日頃の学生や教職員の活動の成果、地域と共に歩む弘前大学を体感するイベント、社会に広く開かれた弘前大学、その学生が活発に、生き生きと展開している姿は、学生、教職員にとっても大きな励みとなっていました。

記念式典は、弘前大学理学部の卒業生で現在、青森朝日放送のアナウンサーとして活躍されている石塚絵里子さんの司会により、宮永崇史研究科長が「来年度からの学部改組を間近に控え、地域の皆様にはこれからますます理工学部との関係を深めていただくとともに、大きな期待を寄せていただきたい」と式辞を述べました。続いて、三村伸吾青森県知事（代理）、葛西憲之弘前市長（代理）、一般社団法人青森県工業会 東康夫会長から祝辞が述べられ、理工学研究科の糠塚いそ教授、同窓生を代表して元理学部生物学科教員の石田幸子先生、在学生を代表して理工学部生物学科教員の伊藤厚さんが挨拶しました。引き続き、弘前大学理工学部では、理学部・理工学部創設50周年記念式典を平成27年10月17日（土）に弘前大学理工学部で挙行し、県内外の卒業生、元教職員をはじめ、学内外の関係者約120名を招き、盛大に50周年の節目を祝いました。

第15回弘前大学総合文化祭 開催 記念式典 理学部・理工学部創設50周年



弘前大学理学部・理工学部創設50周年記念式典・記念講演会が行われました。

前大学理工学研究科の浅田秀樹教授が「アインシュタインの一般相対性論誕生100周年」、同じく理工学研究科の稻村隆夫教授が「弘前大学理工学部誕生と私の研究活動」と題して、記念講演を行われました。

「弘前大学グリーンカレッジ」開校

第15回弘前大学総合文化祭 開催

在札幌米国領事 弘前大学を訪問



佐藤学長(左)と和氣副学長(右)と領事(中央左)

佐藤学長を表敬訪問した後、イングリッシュ・ラウンジを訪れたハービー・領事は、アメリカから留学中の学生と懇談し、大学生活の様子や今後の夢について語り、会話が弾んでいました。

その後、農学生命科学部附属生物共生教育研究センター（藤崎農場）を訪れ、収穫の時期を迎えた人種など、たっぷり蜜の入った果実を収穫するというめつたに出来ない貴重な体験を楽しみ、今後もアメリカとの友好関係が継続・発展することを期待して大学を後にしました。



最優秀賞を受賞した人文学部チーム

研究・イノベーション推進機構では、大学のもつシーザーを活用したベンチャーの創出と地域産業の発展及びイノベーションの創出に向け、学生や若手研究者の起業（V.B.）を促進することを目的とした「弘前大学起業家塾」を今年度よりスタートさせました。平成28年1月25日（月）、最終回となる第6回目でビジネスコンテストを開催し、学生等9組によるビジネスプランのプレゼンテーションが行われました。

論文タイトルは「地方中小企業向け『健康プログラム』の可能性～医学（社会疫学）と行動経済学の知見をふまえて～」。職場の健康改善は、地域、特に青森県の大きな課題です。人文学部の学生チームは、職場の健康に関する現状と課題を研究し、提言をまとめました。参加した学生は、「以前は自分がこんな研究に携わるとは想像もしなかったが、一生懸命研究を進めて、しかもそれが評価されてうれしい（リー

ダー 田中沙織さん）」「緊張したが、あえて自分を追い込んで発表に臨んだ。金融のプロを前にして、わくわくした。提案を今後実践する企業が出でれば（発表者早坂友佑さん）」と語りました。

「第11回 日銀グランプリ」で最優秀賞



受賞者及び審査員の方々

最優秀賞は、「富士通の開放特許を活用したスポーツバイクパーツ発色加工ビジネスの提案」について発表した人文学部3年生によるグループ「まいてい」さんが受賞し、そして優秀賞は、「青森とイスラエルの橋渡しビジネス」について発表した医学部医学科5年 青木智乃紳さん、「開放特許技術を活用したドラム式洗濯機の事故防止製品」について発表した人文学部3年生によるグループ「Team Adelei」（アデリーテ）さんがそれぞれ受賞されました。

弘前大学起業家塾（第6回）を開催

Information

「弘前大学基金」ご協力のお願い

現在、国立大学を中心とした我が国の大学は、改革の大きな流れの中にあります。私たちはこれを大学に対する社会からの大きな期待に基づくものと受けとめ、社会のリーダーとして我が国の発展を推進する人材を育成すべく、弘前大学においても諸改革に取り組んでおります。改革の大きな方向性としては、地域を志向した大学改革を推進することとし、以下の5点を学長として宣言いたしました。

1. 地域の自治体、企業、経済団体、県民等との多様な連携関係を構築し、地域課題の解決に向けた取り組みを進めます
2. グローバルな視点を持って地域の課題を受けとめ、その解決に取り組む人材を育成します
3. イノベーションの創出に寄与する学際的研究、共同研究等を地域と共に進めます
4. 地域の人々の「学び直し」の機会を提供するとともに、学生が協働する地域活動を進めます
5. 大学の国際化を加速し、多様性(diversity)ある大学づくりを進めます

これらの取り組み等を通じて、地域活性化の中核的拠点としての本学の姿を確固たるものにして参ります。そのためには、財政基盤の充実強化が不可欠であり、国からの運営費交付金のみに頼るのではなく、自主財源の確保にも力を注ぐことが重要であると考え、「弘前大学基金」を創設いたしました。この基金は、学生支援、教育研究、国際交流及び社会貢献に関する活動等の一層の充実に役立てていきたいと考えております。経済状況が厳しい中ではございますが、本基金の趣旨に御理解を賜り、格別の御協力と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

国立大学法人弘前大学長 佐藤 敬

基金の主な事業・目的

1. 学生への支援事業

- ◆ 学生の修学に対する支援
- ◆ 学生の就職活動に対する支援
- ◆ 学生の課外活動に対する支援 等

2. 教育研究活動への支援事業

- ◆ 教育研究環境の整備充実に対する支援
- ◆ 地方公共団体等との連携活動に対する支援 等

3. 国際交流活動への支援事業

- ◆ 海外協定大学との学術交流等に対する支援
- ◆ 学生の海外派遣に対する支援
- ◆ 外国人留学生の受入れに対する支援 等

4. 社会貢献活動への支援事業

- ◆ 地域の人々の生涯学習に対する支援
- ◆ 学生のボランティア活動に対する支援
- ◆ 地域医療への貢献等に対する支援 等

5. その他基金の目的達成に必要な事業

- ◆ 大学全体に対する支援 等

【特定基金】

学都ひろさき未来基金

本学の教育、研究及び社会連携におけるグローバル人材の育成の推進に資することを目的とする

ご寄附の申込方法

【払込取扱票によるお申し込み】

払込取扱票に住所・氏名・寄附目的(上記1～6)をご記入の上、各金融機関よりお振り込み下さい。ゆうちょ銀行・郵便局及び下記銀行の本支店窓口でのお振り込みは手数料がかかりません。なお、他の金融機関を御利用の場合は、振込手数料が必要となりますので御了承願います。

ご不明な点は、弘前大学基金事務局までお問い合わせ下さい。

【指定金融機関】 振込先 「弘前大学基金」

ゆうちょ銀行 弘前郵便局 当座 0119848
青森銀行 弘前支店 普通 3078615
みちのく銀行 弘前営業部 普通 2693447

税制上の優遇措置

弘前大学へのご寄附に対しましては、税法上の優遇措置が受けられます。

【寄附者が個人の場合】

所得税

〈所得税法 第78条2項3号〉

寄附金額が2千円を超えた場合は、確定申告することにより、総所得金額の40%を限度として所得の控除が受けられます。

寄附金控除額＝寄附金額(総所得金額の40%を限度)－2千円

住民税

寄附者がお住まいの都道府県・市区町村が、条例で本学を寄附金税額控除の対象として指定している場合、寄附金額(総所得金額の30%を限度)－2千円に次の率を乗じた額が税額控除されます。

- ・お住まいの都道府県が指定した寄附金…4%
- ・お住まいの市区町村が指定した寄附金…6%

※ご寄附いただいた年の翌年1月1日に、指定された都道府県・市区町村にお住まいの方が対象となります。

※所得税の確定申告を行わない場合は、お住まいの市区町村に申告を行う必要があります。

(注)この指定は、各都道府県・市区町村の自己裁量となっておりますので、本学が指定機関かどうかは、お住まいの都道府県・市区町村にお問い合わせください。

【寄附者が法人の場合】

法人税

〈法人税法 第37条3項2号〉

寄附金の全額が損金に算入され、税金はかかりません。

(一般の寄附金にかかる損金算入限度額とは別枠です。)

弘前大学基金事務局 (財務部財務企画課内)

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

TEL : 0172-39-3034 FAX : 0172-32-9490

E-mail : jm3034@hirosaki-u.ac.jp



〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

Tel.0172-39-3012 E-mail : jm3012@hirosaki-u.ac.jp

発行/弘前大学総務部広報・国際課(2016年3月発行)

公式ホームページ : <http://www.hirosaki-u.ac.jp>